ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E142J009	版画演習 (Seminar of Woodcut)		対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
選択	2	3	教育学部	前期	金2	日本語		単独

担当教員	氏名　石田　翔太 E-mail　ishida-syouta@oita-u.ac.jp　内線
授業の概要	本授業では、版画の多様な技法を体系的に学びながら、それぞれの特性を理解し、表現技法の習得を目的とします。版画は彫刻や刷りのプロセスを通じて独自の質感や構成を生み出す表現技法です。本授業では、木版、銅版、コラグラフの三つの技法に取り組み、それぞれの歴史や技術、造形的な特性を学びます。最終的には、各技法による表現の異なりを理解しながら、受講者の感性と創造性を反映させた作品を完成させます。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	版画表現の基本的な技術を習得し、その仕組みと表現の関係性を説明することができる。		○						
目標2	版画の限られた表現から、応用・発展的な技法を主体的に開発し、実演することができる。				○				
目標3	版画制作から感じること考えることを社会や教育に応用することができる。						○		
目標4	作品制作と鑑賞を通して、自分が感じたことや考えたことを的確に言葉で説明することができる。			○					
目標5	作品鑑賞を通して、受講者相互の多様な表現のあり方や思想について尊重し、意見交換など協力することができる。					○			
目標6									
目標7									
目標8									
目標9									
目標10									
		各DPへの関連度（計10）	3	1	3	1	2		

授業の内容

1	オリエンテーション：版画の種類と導入制作
2	版画における構成技術。【導入講義】西洋における版画の事例
3	凹凸版の仕組み
4	木版画①：彫刻刀の種類と使い方。【導入講義】日本における版画の事例
5	木版画②：和紙について
6	木版画③：摺りの手順
7	木版画④：摺り、鑑賞会
8	銅版画①：金属板、ニードルやその他の用具の扱い方。【導入講義】銅版の歴史
9	銅板画②：洋紙について
10	銅板画③：刷りの技術（ローラーやプレス機などの使い方）
11	銅板画④：刷り、鑑賞会
12	コラグラフ①：版制作のための素材、発想の生成
13	コラグラフ②：構成と造形
14	コラグラフ③：インクの乗せ方、詰め方
15	コラグラフ④：刷り、総合鑑賞会

アクティブラーニング				その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	受講者は制作時に感じたこと、考えたことをメモにして貯め、制作のナラティブを形成する。実技課題ごとに行う作品鑑賞会は作品のプレゼンテーションと意見交流を行う。さらに、受講者の制作メモを活用し、受講者間で相互作用的に感性の育成を促進させる。		制作メモを活用した「感性の交換」により、知識と技術だけでなく、美的感性の育成にも取り組む。
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向				
D:知識の活用・創造	○			

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	各課題で作品のプランニングを行う。（12h）様々な版画作品について調べる。課題に関する材料について調べ、準備する。（10h）制作に必要な下準備を行う。(5h)
	事後学修	自身の作品制作に応じた素材、異分野の知見について学習し、制作に反映させる。版画に関する基本的な知識を得る。（18h）
	想定時間合計	45

教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントなどを使用する。
参考書	必要に応じてプリントの配布や参考資料を紹介する。

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	実技課題作品	60%	○	○	○							
	作品制作に関するプレゼンテーション、意見発表	20%		○	○	○	○					
	問題意識、目的意識	20%	○	○	○	○	○					
	すべての制作課題の完成、提出を単位取得の条件とする。											

注意事項	授業で使用する素材は受講者が準備する（詳細は第1回で説明する）。授業で使用する一部の画材材料費を集める（目安として1,500円程度）。 版画制作に取り組むため、衣服に絵具などが付着することがある。受講者は各自その点に対策すること。
備考	
リンク	URL
担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	中学校、高等学校教職員
実務経験をいかした教育内容	実際の教育現場で想定される問題や課題、教授法の事例を紹介して教職意識を高めると共に、その適切な対応法を身につける。